

合同シンポジウム

第二部 第26回 関西地域GIS自治体意見交流会

一般社団法人 地理情報システム学会関西支部



守口市

公園管理システムを活用した維持管理について

守口市 道路公園課
神崎 翔太

目次

- 守口市の紹介
 - 市営公園の特徴
 - 当時の状況/課題 ～包括管理導入のきっかけ～
 - 当時の状況/課題 ～システム導入のきっかけ～
 - 課題解決のために
 - 導入の流れまとめ
 - 現在の運用方法
 - 運用方法紹介
 - 運用メリット
 - 新たな課題
- 今後の展望
■期待すること



守口市の紹介

- ・位置：大阪市の北東に隣接
- ・人口：14万799人(2025年7月現在)
- ・公園面積：約111.1ha(191カ所)
- 内8カ所(約79.7ha)は国、大阪府、大阪市の管理
- ・1人当たり面積：7.02㎡/人(2025年3月末)
- 大阪府全体の5.71㎡/人を上回る

★★★
【ロビー】地面が光る信号！未来型「導入型信号」が守口市に登場
「歩行者の“足元”から安全を守る、新しい交通インフラ」で注目されました！！



市営公園の特徴

「守口市公園マスタープラン」より、、、

守口市は

- ・小規模公園が多い
 - ・老朽化公園が多い 特徴がある。
- ⇒維持管理が大変



当時の状況/課題

～包括管理導入のきっかけ～

R4 包括委託検討開始

背景：人材不足＋財政難

パトロールは直営(職員)により実施

樹木剪定や施設点検等はそれぞれ業者委託

＝複数業務により市内公園の管理を実施（重複費用、小規模公園も多く効率が悪い）

⇒包括的に発注することにより、重複費用の低減と業務の効率化を図りたい！！

当時の状況/課題

～システム導入のきっかけ～

システム管理検討

背景：公園管理の課題(台帳管理、紙処理、情報の蓄積、情報の抽出、、、)

情報の管理方法が統一でない、情報更新が人手不足でできていない

調査の作成に手間がかかる、保管の場所が取れどこにあるのかも不明確

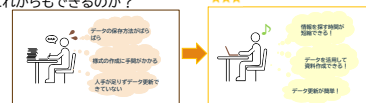
市民問い合わせに対して回答に時間を要す、欲しい情報をすぐ出せない

＝満足な管理ができていないのか、これからもできるのか？

⇒効率的な管理、

データ活用による資料作成、

職員更新手間を省きたい！！



課題解決のために

①包括管理による連携の必要性

②施設データ共有、苦情要望、処理経過の一元管理

⇒インターネット型(WEB)システム導入(行政LGWANでない!!)

情報の統一及び煩雑な管理体系の解消のために、

包括管理者が「どこからでも」「だれでも(ID)」「いつでも」

インターネット接続さえできれば「どの端末からでも」情報登録が可能

職員は行内から作業状況、管理状況が把握可能に!!

導入の流れまとめ

R4包括委託検討開始

背景:維持管理が大変なうえに、人材不足+財政難、

+システム管理検討

包括管理者の管理業務のついでに現地情報の登録・更新を行ってもらおう

背景:公園管理の課題(台帳管理、紙処理、情報の蓄積、情報の抽出、)

R5包括委託プロボ実施、公園管理システム構築⇒運用開始

R6管理現場に合わせたシステム機能改良、運用ルール改善

現在の運用方法

「公園維持管理スマート化」を目指して

公園台帳、公園施設長寿命化に係る施設情報、
日々の巡回・点検実施情報、
各種の許可手続きや苦情・要望等の受付情報等、
公園維持管理業務に係る各種データ管理を
1つのシステムに集約!



運用方法紹介

ポイント

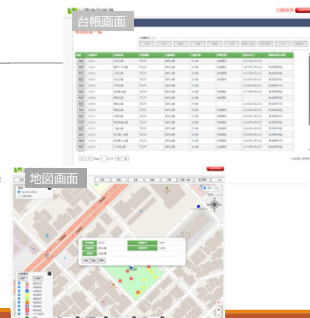
1, ログインIDで閲覧・編集権限付与

Ex,職員:全体の情報管理・編集

遊具業者:遊具管理画面のみ閲覧・編集

LED工事点検業者:LED灯のみ閲覧・編集

2, GIS・台帳と両画面から編集及び登録可能



運用方法紹介

3,リアルタイムでの反映・更新

Ex,業者が現地から即座に職員へ確認して欲しい場合、

画面を見ながら電話で現地の情報・写真を共有

4,レポート・調査自動作成

Ex,データのエクスポート機能より情報の取出し、形式を登録しておくことで報告レポートの作成が簡単に可能

5,管理項目等が増えた場合も改修で対応可能



運用メリット

導入効果

- ⇒情報共有が楽に
- ⇒管理者とのデータ共有の精度向上
- ⇒情報の蓄積
- ⇒市民対応の向上
- ⇒職員管理作業削減、業務効率向上
- ⇒他業務への注力

相乗効果

新たな課題

① システムの追加的な活用

公園の維持管理情報をためるだけでなく、
市民の課題解決に幅広く貢献するために

② 蓄積した情報データの応用

貯めたデータをどう日常業務の改善と効率化に紐付けるのか
新たな価値を生み出すためには、



今後の展望

【機能拡大】他業務への波及効果

- ・占用物件、設置許可や管理許可物件の把握
⇒ 占用料徴収や許可の効率化
- ・誘致圏内の遊具等の重複確認、市計画との連携
⇒ 持ち物の総量を減らし、維持管理費の軽減
(砂場がある公園の横に砂場要らない、長寿命化の遊具選定の一助に)

位置情報から地域ごとの課題を、属性から公園全体の課題を

期待すること

【効果拡大】

・情報データの集積と分析

⇒ 苦情内容から公園ごとの課題を確認

Ex, 不法投棄が多い⇒ 見通しが悪い？

たむろしやすい施設がある？⇒ 見通し確保(樹木管理)

⇒ 苦情内容から市内全域の課題を確認

Ex, 守口市はインクル遊具少ない⇒ 必要な公共施設付近に
設置⇒ 誘致圏確認

持続可能な都市を
目指して都市公園DXを
推進

- 公園維持管理の
スマート化・高度化
- 公園利用満足度のさら
なる向上
- 公園の新たな価値創造

最後までご清聴頂きありがとうございました。

守口市の公園にも
遊びに来てね！！

